

氏	河 本 幸 子
授与した学位	博士
専攻分野の名称	歯学
学位授与の番号	博 甲 第 3098 号
学位授与の日付	平成 18 年 3 月 24 日
学位授与の要件	医歯学総合研究科社会環境生命科学専攻(学位規則第4条第1項該当)
学位論文題名	三歳児のう蝕有病状況から見たおやこクラブの意義

論文審査委員 教授 下野 勉 教授 吉山 昌宏 教授 渡邊 達夫

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

【目的】

岡山市は平成 10 年度から 1 保健所 6 保健センター体制をとり、保健センターで各種保健事業を実施している。実際に事業に従事していると、同一市内においても保健センターごとのう蝕有病状況の違いを感じることが多い。事業の実施にあたっては、それぞれの地域特性を明らかにした上で、地域のニーズをふまえたものであることが望まれる。そこで、本研究では、う蝕有病者率という観点から、岡山市内の小さな地域単位における特性を比較し、う蝕に影響している要因を明らかにすることを目的とした。

【対象および方法】

1. 対象

平成 10 年度から平成 16 年度までの 7 年間に実施した岡山市の三歳児歯科健康診査を受診した岡山市内に住所を有する 35,954 名の幼児の健康診査結果を分析に用いた。

2. 方法

6 保健センター別および 32 中学校区別に、受診年度別う蝕有病者率を求め、目的変数とした。各年度の三歳児健康診査の受診者数、性別、昼間の養育者、おやこクラブの加入率、平均生歯数、平均家族数、1 歳 6 か月児健康診査結果から同時点でのう蝕有病者率、おやこクラブの加入率、昼間の養育者、平均生歯数、平均家族数、三歳児健康診査を受診した児に占める 1 歳 6 か月児健康診査の受診割合を説明変数に用いて、重回帰分析を行った。

【結果】

岡山市全体の三歳児う蝕有病者率は、平成 10 年度は 39.3%であったが、平成 16 年度には 26.4%に減少した。また、6 保健センター別のいずれでも減少していた。32 中学校区別では、平成 10 年度には 50%以上のう蝕有病者率を示していた地域が 5 か所あったが、平成 16 年度にはいずれの地域も 40%未満となった。

重回帰分析の結果、保健センター別、中学校区別のいずれにおいても三歳児健康診査時のう蝕有病者率は、年々減少していることが確認された。また、三歳児健康診査受診時の昼間の養育が主に祖父母である者の割合が大きいほど、保健センター別、中学校区別ともう蝕有病者率が高いことが示された。さらに、保健センター別の分析では、三歳児健康診査時の平均家族数が多いほどう蝕有病者率が高く、1 歳 6 か月児健康診査時のおやこクラブの加入率が高いほどう蝕有病者率が低いことが示された。中学校区別の分析では、三歳児健康診査時のおやこクラブの加入率が高いほどう蝕有病者率が低いことが示され、1 歳 6 か月児健康診査時の平均家族数が多いほどう蝕有病者率が高く、1 歳 6 か月児健康診査受診者の割合が高いほどう蝕有病者率が高いことが示された。

【考察】

う蝕有病者率には、受診年度、昼間の養育者、平均家族数、おやこクラブへの加入率が関係していることが示された。

岡山市の三歳児のう蝕有病者率は、保健センター別、中学校区別のいずれにおいても平成 10～16 年度の 7 年間で減少していることが示された。岡山市保健所で実施しているフッ化物歯面塗布事業の受診者数は、平成 8 年度以降平成 14 年度まで増加しており、本事業の受診者数が増えたことがう蝕有病者率の減少の一因であると考えられる。

祖父母による養育や家族数が多いことが幼児のう蝕罹患やう歯数に影響していることは、個人単位で分析を行った過去の研究においても明らかにされている。本研究においても祖父母による養育を受けている割合が高い地域や平均家族数が多い地域では、う蝕有病者率が高くなっており、地域単位の分析でも同様の結果が示された。

また、今回の分析では、おやこクラブへの加入率が高いほど、その地域のう蝕有病者率が低いことが示された。おやこクラブとは、子どもたちの豊かな心と健康な体を育てるために、就園前までの幼児と保護者が仲間づくりをすすめていく岡山市独自の育児サークルである。保健センター単位で年度ごとの活動テーマを決め、そのテーマに沿って、町内会や小学校区、中学校区単位の地域のおやこクラブで日常の活動を行っている。会員自らが問題を発見、認識し、解決していく場としている。ヘルスプロモーション推進のためには、個人の技術の向上だけでなく、住民組織活動の強化が不可欠である。本研究において、おやこクラブの加入率が高い地域でう蝕有病者率が低かったのは、おやこクラブが日々の活動を通じ、地域の慣習や家庭の習慣を変化させ、健康を支援する環境づくりをすすめていった結果ではないだろうか。従来からの保健指導といえ、個人を対象とするものが多かったが、住民組織との連携をすすめて、助言を行ったり、自主的な活動を支援したりすることで、より大きな効果が得られるものと考えられる。

【結論】

岡山市内の地域特性をう蝕有病者率の観点から、保健センター別、あるいは中学校区別という小さな地域で比較し、う蝕に影響している要因を明らかにすることを目的とし、平成 10～16 年度の三歳児健康診査結果を用いて分析を行った。

その結果、

1. おやこクラブの加入率が高いほど、う蝕有病者率が低いことが示され、おやこクラブの活動を通じ、地域の健康課題が解決されている可能性が示唆された。
2. 三歳児のう蝕有病者率は、受診年度とは負の相関が認められ、7 年間でう蝕有病者率が減少していることが確認された。
3. 三歳児健康診査時の昼間の養育が祖父母による者の割合が高いほど、また、平均家族数が多いほど、う蝕有病者率が高いことが確認された。

論文審査の結果の要旨

本論文は、岡山市内において、保健センター別、中学校区別という小さな地域単位で、う蝕有病者率に影響している地域要因を明らかにしようとしたものである。

平成10年度から平成16年度までの7年間に岡山市三歳児健康診査を受診した幼児35,954名の健康診査結果を用いた。6保健センター別および32中学校区別、受診年度別に三歳児健康診査時点でのう蝕有病者率を求め、目的変数とした。さらに、三歳児健康診査および1歳6か月児健康診査から得られた受診者数、性別（女児）の割合、昼間の養育者（父母・祖父母・保育園・幼稚園）の割合、おやこクラブの加入率、平均生歯数、平均家族数などを説明変数とし、ステップワイズ法による重回帰分析を行った。

その結果、おやこクラブの加入率が高いほど、三歳児のう蝕有病者率が低いことが示された。また、三歳児のう蝕有病者率は、受診年度とは負の相関が認められた。さらに、三歳児健康診査時点での昼間の養育が祖父母による者の割合が高いほど、また、平均家族数が多いほど、う蝕有病者率が高いことが確認された。

本研究では、実際の公衆衛生現場において、地域診断を行い、養育者や家族数だけでなく、岡山市独自の組織であるおやこクラブの加入率が幼児のう蝕に関係していることを明らかにした。おやこクラブ活動がう蝕という地域の健康課題の解決に寄与しているのではないかという仮説が設定され、今後、この仮説を検証していくことにより、地域特性に応じた効果的な公衆衛生活動の実践につながるものである。権威者の意見によって実施される市町村の事業が多い中で、本研究は疫学的手法を用いて政策を評価した。このことは、今後、事業の企画立案に役立つばかりでなく、科学的な評価方法を導入する必要性を教示している。

したがって、本論文は博士（歯学）の学位を授与する価値があるものと認めた。